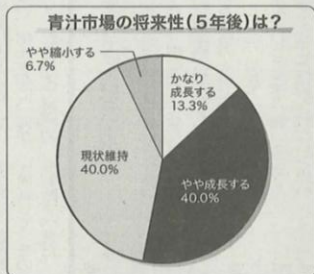
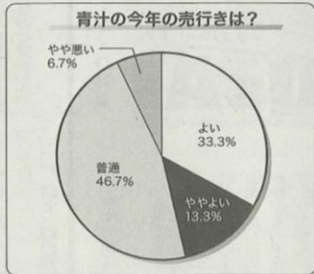


メーカーの技術革新が市場成長を下支え

特集

成長続ける青汁市場

健康志向と言われるなか、青汁市場は堅調に推移している。製造・卸企業に、青汁の今年の売行きを聞いたアンケートでも「よい」「ややよい」が約半数を占め、「やや悪い」は6.7%にとどまった。「悪い」に至っては皆無だった。市場の今後の見通しについても、成長通しが過半数を占め、「やや縮小する」は6.7%にとどまった。この青汁市場の好調さを下支えているのは、メーカー各社の技術革新だ。この数年で青汁は発酵化が図れるようになった。「有機」「トクホ」「機能性素材」「契約農場」などさまざまな面で差別化が図れるようになった。ただ、その結果として、メーカー各社が顧客企業に提示できるメニューが似通ってきているのも一方の真実だ。「おいしさ」「機能性」「有機」といった言葉は同じだが、それぞれの言葉の「質」「重み」「深み」が問われる時代になってきているといえるだろう。



有機「機能性」質が問われる時代に

広大な農地で原料生産

ミナト製薬

有機の一貫生産が可能

健康食品などの受託製造を行うミナト製薬(本社東京 北崎番莖社社長 電03-35564-3710)は国内の自社管理農場で栽培した、高品質で機能性の高い青汁を供給している。熊本をメインに自社管理農場を展開しており、有機原料も栽培している。



自社管理の広大な農地で桑、大麦若葉、ハトムギ若葉、カワラケツメイなどの青汁原料を栽培している

桑、大麦若葉、ハトムギ若葉、カワラケツメイなどの青汁原料を栽培している。需要の拡大に合わせて、農地も広げており、約25万平方メートル(東京ドーム約5個分)の主力の農地は、このほど50万平方メートル(同約10個分)に拡張した。自社管理農場の広さは総計で東京ドーム20個分ほどになった。顧客企業は、通販などの際に、自社管理農場の広大なイメージを写真や映像で活用することもできるという。

自社管理農場では、機械刈りを一切行わず、すべて手刈りで対応している。モグラなどによる土の隆起があったとしても、手刈りならば土を巻

き込むという手刈り取る(コト)ができ、異物の混入リスクを極小化できる。

有機JAS対応でない自社管理農場でも、有機JAS農場と同様の工程で栽培を行っており、農薬などは一切使用しない。

明日葉については、伊豆大島の契約農家から原料を仕入れており、要望に応じてニュージーランド産の高品質で比較的安価な大麦若葉も取り扱っている。仕入品も含め、トレーサビリティには万全を期しているという。

製造工場は、品質ISO9001や、財団法人健康・栄養食品協会の健康補助食品GMPの認証も受けており、高品質な製造が可能だ。

注目素材

エヒデンス豊富な青汁素材として注目を集めているのが「カワラケツメイ」だ。ミナト製薬が提案している。

紹介されるなど、古くから健胃、強肝、利尿、目の疲労や充血の抑制に効果があると言われてきた。

同社ではマウス試験やヒトモニター試験を実施している。

ミナト製薬「カワラケツメイ」

エヒデンス豊富な青汁素材

で、同素材に脂肪吸収の阻害作用があることを突き止めた。さらに「カワラケツメイ」は、国内やアジアに分布する一年草で、日本と台湾はタニシンの古書「草木図説」で一種であることが確

28日間の亜急性毒性試験などで安全性も確認。有機JAS素材も生産している。